

閣僚「五輪中止を」拒む首相

菅政権はなぜ、国民の多くが中止・延期を求める東京五輪開催を強行しようとするのか。新型コロナ禍というパンデミック下の五輪など、ありえないのではないのか。五輪は誰のため、何のためなのか。都民、国民の命より、五輪が大切なのか。疑問に感じるばかりだ。写真の朝日 25 日 1 面トップの記事に注目した。抜粋して紹介する。写真下は asahi.com から。

首相が掲げる「安心・安全な五輪」が本当に実現できるのか。開会まで 1 カ月を切る中、政権与党でもいまだ疑念は晴れていない。東京などの緊急事態宣言が解除された 5 月半ば以降は、首相に中止を求める直言も相次いだ。

「この状況を考えれば、中止も仕方ありません」「中止で支持率はマイナスになりません」。何人もの閣僚らが、この 1 カ月ほどの間に首相に五輪中止の決断を迫ったと証言する。だが、そうした声はみな退けられた。「ワクチン接種を加速させる」「感染者数は 6 月に減るはずだ」。首相はそんな決意の言葉を繰り返したという。

夏の五輪・パラリンピックは、9 月に自民党総裁の、10 月に衆院議員の任期を迎える首相にとって、この 1 年の総仕上げとなる。五輪の成功を背に衆院解散・総選挙に臨んで、長期政権の足場を築く。

昨秋、安倍晋三前首相から政権を引き継いだ際に打ち立てたシナリオに、かたくなにこだわる。

首相は、長く東京大会の準備を重ねた前政権の継承者でもあった。五輪から身を引けば、自らの足もとがどうなるか。「見直し」と「実施」のリスクをはかりにかけ、首相の針はなお実施の側に振れた。

先の主要 7 カ国首脳会議(G7 サミット)で五輪への支持をとりつけ、ワクチン接種も軌道に乗る。「首相は楽観シナリオを信じている」。首相周辺は、五輪に突き進む首相の様子をそう語る。

だが、東京には「第 5 波」の予兆がちらつく。首相が繰り返し強調するワクチンの効果は、政府内でも「五輪には間に合わない」(官邸幹部)との見方が一般的だ。

当の首相は最近、周辺にこんな考えも漏らした。「五輪はやめるのが一番簡単なんだ。でも、ここまで来た。全部やめるわけには、やっぱりいかない」

2 面には「安倍氏のこだわり 継ぐ首相」と大きな見出し。五輪でも安倍前首相が?

(2021 年 6 月 26 日)

